

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23780218

研究課題名(和文) ベトナムにおける青果物広域流通の展開に関する研究

研究課題名(英文) Study on expansion of vegetable distribution system in Vietnam

研究代表者

高梨子 文恵 (Takanashi, Fumie)

広島大学・生物圏科学研究科・特任講師

研究者番号：60547214

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：急速に流通圏を拡大しているスイカを事例に、ベトナムにおける青果物の広域流通の形成過程とその特徴について調査研究を行った。本研究により得られた主な成果は以下の4点である。

第1に、近年産地として拡大している中部高原地域では、移動耕作を主体とした周年生産が行われており、環境への負荷が著しい。第2に、中部高原地域をはじめとするベトナム国内で生産されるスイカの8割が国境市場を通じて中国市場へ輸出されており、中国市場への依存が非常に高い。第3に、ベトナム国内の流通網は中国市場の規格外品を国内流通させるために整備された。第4に、現在のスイカの国内分荷構造は、産地及び北部中継市場の2段階構造になっている。

研究成果の概要(英文)：This study aims to find out expansion process of fresh vegetable distribution in Vietnam. The case of Watermelon is discussed as a case study. The main results are as below;

First, in central highlands, that is developed as a watermelon production area recently, watermelon produced by shifting cultivation because crop rotation system is not established yet. Second, 70 to 80% of watermelon produced in recent developed watermelon production area export to China through Lang Son-Guang Xi border gate. Third, Vietnamese domestic watermelon distribution network developed to distribute watermelons below Chinese market standard in domestic market. Forth, selection of watermelon proceeded in 2 stages. First, only A-degree products selected at farm field and directly ship to border market. All the rest ship to Gia Loc market (Hai Duong province) then divided into B-degree (mainly consumed at domestic large city market) and C-degree (consumed at local market).

研究分野：農業経済学

科研費の分科・細目：農業経済学

キーワード：ベトナム 青果物 広域流通

1. 研究開始当初の背景

ベトナムでは、近年の経済発展に伴い、小規模自給的農業が行われてきた北部红河デルタ地域であっても、生産の中で商品作物として販売されるものが徐々に拡大傾向にある。消費地における需要拡大もあって、特に野菜・果物生産は大きく拡大しており、同時に政策的にも、農家の所得拡大が大きな課題であるため、付加価値の高い農産物の生産を進めている。その一方で、農協や卸売市場などの制度的な流通機構は整備が十分に進んでおらず、自然発生的に生まれてきた商人が大きな農産物の流通の中で大きな役割を果たしている。ベトナム、特に北部の場合、社会主義時代を経ているため、こうした商人の働きは限定的であるとされてきたが、近年の生産と流通拡大の中で大きな変貌を遂げつつある。

青果物はもともと自給的性格が強く、そのため流通も地場流通的であったが、現状は、流通主体である商人は急速な市場経済化によってダイナミックな活動をしており、輸出向けではなくなった青果物も、国境貿易を通じて海外市場とも結び付きを強めつつある。しかし、これまでの研究では、こうした新たな動きは明らかにされていない。

研究代表者は、青果物広域流通の拠点として機能しつつある、ハイズオン省ザロック青果物卸売市場（以下ザロック市場）及び近郊産地で2006年から継続的にフィールド調査を行ってきた。ザロック市場の収集・中継卸売商は、地場収集・近隣販売という収集商が自立化し、そのあと地元野菜の集荷販売を基盤としつつ集荷圏及び販売地域を拡大した準広域集荷商と、中南部産スイカの北部市場への中継商業によって一気に規模拡大を果たしたスイカ中継卸売商の2種類へと機能分化していることがこれまでの調査から明らかになっている。さらに、ベトナムの青果物流通では、卸売商人同士の取引であっても注文による買取方式が一般的であるにもかかわらず、ザロック市場では、中部、南部の産地に拠点を置く卸売商人と継続的な取引を行うことによって委託集荷が広がっているが、こうした取引が拡大した経緯などについては、中・南部産地商人への調査が行われていないため明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究では、ベトナムにおける青果物広域流通の展開過程とその特徴を考察する。具体的には、以下の3点について明らかにする。

北部の青果物流通の要所である Gia Loc 市場と取引のある中・南部青果物産地商人の性格と行動を明らかにし、それらの商人と Gia Loc 市場中継商人との取引関係の変化を明らかにする。さらに、広域市場形成による産地への影響を、農家調査から明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、現地での聞き取り調査をメインに分析を行った。調査は、ベトナムで最大規模のスイカ中継市場であるハイズオン省ザロック市場内の荷受販売者、ベトナムの主要なスイカ産地である中部ザライ、ビンディン省の生産者および集荷移出商人、中越国境でスイカ輸出入取引を行う輸出・輸入商人、に対して行った。また、機関調査としてザライ省農業農村開発局、ザロック市場開設者にも聞き取りを実施した。

4. 研究成果

(1) スイカ産地の動向

ベトナムは大きく北部、中部、南部に分けられるが、その中でも中部地域は、北中部地域(6省)、中部沿岸地域(6省1市)、中部高原地域(5省)の3地区からなる。中部地域におけるスイカ生産は、クアンガイ省、グアンナム省、ビンディン省、フーイエン省など、国道1号線が通り交通の便が良い沿岸地域で生産が増加しており、卸売商人は基本的にこれらの省の都市部に居住しているが、近年需要が増加したことから、コントゥム省、ザライ省、ダクラック省などの山岳地域へも生産が拡大している。本研究では、これらの地域の中で近年生産が増加しているザライ省を事例として取り上げる。表1にザライ省の県別スイカ生産面積の推移を示し

表1 Gia Lai 省県別スイカ生産面積の推移

	(単位:ha)			
	2009	2010	2011	2011/2009
An Khê	402.4	403.2	145.0	0.36
Kông Chro	336.6	484.6	482.2	1.43
Đak Pơ	174.0	308.0	323.0	1.86
Đak Đoa	150.0	140.0	145.0	0.97
Ia Pa	146.1	275.0	492.4	3.37
Kbang	85.0	120.5	152.0	1.79
Chư Prông	55.0	100.0	125.0	2.27
Mang Yang	28.5	31.5	43.0	1.51
Krông Pa	18.8	12.0	32.3	1.72
Pleiku	18.0	10.0	10.0	0.56
Chư Păh	15.0	7.0	5.0	0.33
Chư Sê	4.0	4.0	6.8	1.70
	1433.4	1895.8	1961.7	1.37

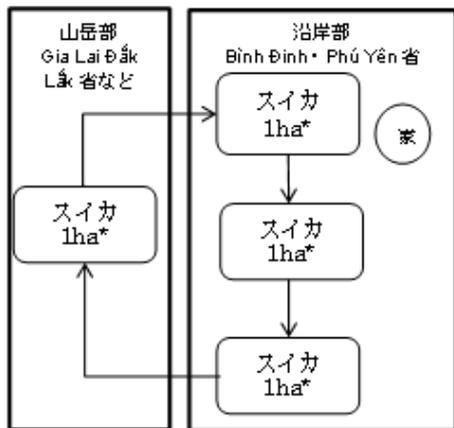
出所: Gia Lai 省農務局 (sở NN&PTNT)



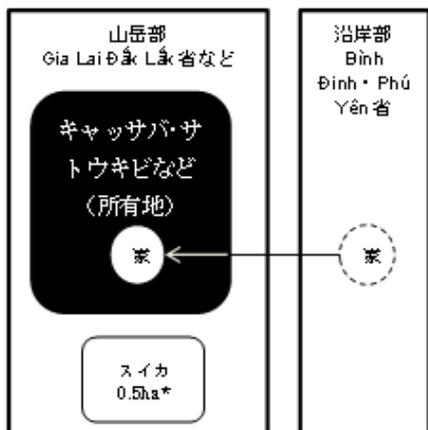
図1 ザライ省地図

た。これによると、2009年には国道19号線でビンディン省にアクセスが良いアンケー県やコンチョロー県などの地域で生産が多いが、2011年にはアンケー県から奥地へ下ったダックポー県やイアパ県などへ産地が移動している。年ごとに作付面積の変動が激しく、1年単位で産地が移動している。

また、聞き取り調査から、ザーライ省のスイカ生産者は、自宅がビンディン省内(特にタイソン県出身者が多い)にあり、出作を繰り返すことでスイカの周年生産を行っている生産者と、入作地の居住者で、他の農産物を中心に生産を行う農家や農業以外の定職を持ち、季節生産を行っている生産者の2パターンに分かれることがわかった(図2参照)。どちらの場合も、スイカ生産は3~4か月単位での移動耕作が主体となっている。この地域ではスイカの輪作体系が構築されていないことが移動耕作の原因で、毎年処女地を求めて生産者が集団で移動し、地域の少数民族などからの借地によって生産を維持している。



パターン①移動型(1年で1周)
*借地。農地は毎年新しい土地を借りるため固定的な場所を表すものではない。



パターン②定住型(スイカ季節生産)
*借地。通常所有地を持ち、他の農産物を生産。スイカ生産開始前に何らかの理由により高原地域に移住。

図2 中部産地におけるスイカ作型
出所：聞き取り調査より作成

(2)ベトナム産スイカの流通の現状
中部産地で集荷を行う産地卸売商人の大半は、生産者と共に中部産地を移動し、地域のスイカを集荷、移出している。ただし、生産に積極的に投資を行っている商人は少なく、現在の収奪的な農業生産構造を変化させるような主体ではない。

中部で集荷されたスイカは、全体の65~80%が中国市場向けられる。時期的には、中国産スイカの収穫期にあたる5~8月は、輸出が難しいためベトナム産スイカはベトナム国内市場向けられている。その一部はハノイ市内の市場に直接移出してされているが、大半はザーロック市場に出荷され、他の国内市場へは同市場を経由して移出されている。

中部産地商人と国境商人との取引は基本的に固定で、産地卸売商人それぞれが、1人の商人に全量販売している。ただし、取引形態は市況によって買取の場合と委託の場合があり、取引自体は不安定で産地卸売商人の価格リスクを高めている。国境商人から資金を得て買い子として集荷する中部産地商人もいるが、国境商人からの融資を受けている商人は一部に留まる。一方で、ザーロック商人との取引は、通常市場内の複数の卸売商人と取引があり、販売ではなく委託が一般的である。さらに、産地卸売商人の集荷行動で述べたように、卸売商人は、中国産のスイカが大量に出回る夏季は、中国産のスイカを輸入し、ザーロック市場で販売している。この場合、産地卸売商人は国境商人を介して買い付けを行い、ザーロック商人に委託で販売する。すべてザーロック市場(北部消費地向け)で販売され、中部や南部の都市の市場に産地卸売商人が持ち込んで販売することはない。また、この場合、商品は国境からザーロック市場に直接輸送され、産地卸売商人は情報と金銭のやり取りのみを行う。

(3)中国市場と国内市場の接点
現在の中部産スイカの分荷過程をまとめると図3ようになっている。スイカの規格はベトナム全体でA、B、Cの3等級に統一されており、まず、中部産地の圃場において中部産地卸売商人がA品のみを選び分け、国境へ直接輸送する。国境市場では、大部分が中国大都市へ向けて移出されるが、一部、国境市場で売れ残ったものはザーロック市場へ返送される。また、産地卸売商人は残りのA品以外を国内市場向けとしてまとめてザーロック市場へ輸送する。ザーロック市場の商人は中部産地商人からの荷と国境から返送されてきた荷を再度A(ただし量は産地から直接移送されるものと比較して少量)B、C品に選果・分荷し、A品を国境市場、B品を国内大都市市場の消費地商人へ販売・移送する。このように、中部産地商人がA品を選別、国内市場向け商品についてはザーロック商人が選り

分けるという分業関係が成立している。

上記したように、中部産地から国境市場へ直接移出されるスイカの割合は70%を超え、割合として非常に高く、さらにA品のみが選別されて出荷されることから、産地の中国市場への依存度は非常に高いといえる。しかし、調査した産地商人すべてが中国市場向け出荷を始めてすぐにザーロック市場へも出荷を開始しており、中部産地商人から見れば中国市場ではいわば規格外品となるB、C品を効率的に流通させるために、或いは国内各産地からスイカを集荷し分荷するという国内スイカ流通円滑化のために、ザーロック市場は重要な役割を果たしている。

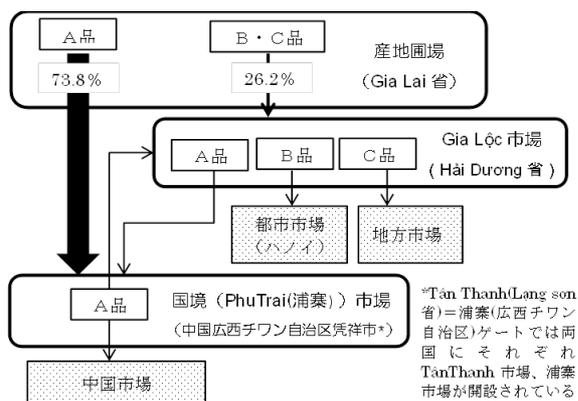


図3 ベトナム中部産スイカの出荷過程
出所：聞き取り調査（2011～2012年）により筆者作成

(4) まとめと今後の課題

まず、今回の研究により明らかになったことをまとめる。

第1に、スイカの市場が拡大する中で、中部地域におけるスイカ生産は沿岸部から山岳部へ拡大しているが、生産は押し並べて収奪的である。

第2に、産地卸売商人と生産者は共生関係にあるが、取引上卸売商人の価格リスクは大きく、さらに産地の維持・発展に積極的に投資する主体ではない。

第3に、ベトナム中部スイカ産地で生産されるスイカの大半、しかもA品が国境市場を通じて中国へ輸出されており、産地の中国市場への依存度は非常に高い。

第4に、分荷過程の中で、産地商人は中国市場向け、ザーロック市場では国内市場向けを選別するという分業関係が見られた。

ベトナムのスイカ生産は、中国市場の影響を受け、条件不利地へも生産を急速に拡大させている。しかし、その生産基盤は脆弱で、生産を担う生産者、流通を担う卸売商人ともに産地への投資は限定的で、持続的な生産体制は確立されていない。それにも関わらず、中国市場への依存度は非常に高いため、今後の市況によっては産地が大規模に移動する可能性も否定できない。

一方で、中部で産地が形成され、中国市場圏へ参入したことによってベトナム国内に

おけるスイカ流通も再編している。産地生産者及び卸売商人の主要な生産物はA品（中国市場向けスイカ）であるが、同時に規格外品を流通させるためにスイカ商人資本は国内の流通網を展開させている。既に北部に産地市場として展開していたザーロック市場は、国境とも比較的近く、物流の面でも便が良いため生産物が集積されるに至ったと考えられる。

このように、生産面においては不安定性を伴っているが、中国市場への参入によって産地は外延的に拡大している。また流通面では、中国市場を中心とした流通が構築された結果、国内流通も再編され、これによって中国市場（正品市場）とベトナム市場（規格外品市場）は連動することとなり、ベトナム消費者も中国市場の影響を大きく受けている。

今後の課題として、収奪的な移動耕作が定着した理由を明らかにし、および循環的な生産体系を構築するため、ベトナム国内の他地域と比較して生産・流通面でそれほど優位性が見られない中部でスイカの大規模な生産が可能になった社会経済的背景を明らかにする必要がある。さらに、中国市場への依存度が非常に高いことから、中国において輸入が急速に拡大している背景など、中国市場との関連についても明らかにする必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計2件）

1. 高梨子文恵・坂爪浩史、ベトナムにおける青果物広域流通主体の行動と産地の課題、食農資源経済学会、2013年9月16日、大分大学

2. TAKANASHI Fumie・SAKAZUME Hiroshi, “Expansion of Vegetable Marketing Network under Globalization and its Impact to Local Distribution System in Vietnam” 13th WCRS, August 4th 2012, Lisbon (Portugal)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高梨子 文恵 (Takanashi Fumie)

広島大学・大学院生物圏科学研究科・

特任講師

研究者番号：60547214